

重点目標	1全職員一丸となって取り組む学校課題研究の充実と授業力の向上 2明るく活気があり、安全で安心できる学校環境の充実 3地域・保護者・近隣学校等との信頼関係を基盤とする学校づくり 4全校児童が心をひとつにする、教育活動の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
	<現状> ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、昨年度は国語、算数共に、全国、県平均と比べて上回る結果であった。しかし、両方の教科の回答を分析すると応用問題については、解答率が高いが基礎・基本問題において解答率が低い。 ○学習調査において、無回答率が高く課題に対して、粘り強く取り組む姿勢が見られなかった。 <課題> ○分析から基礎問題を丁寧に取り組み、ケアレスミスを減らししていくように取り組むことが課題である ○自ら主体的に取り組み、授業に見通しをもって学んでいく児童がもっと多くなると、さらに充実したものになる。 ○対話的な学びを推進し、児童に「わかる、できる、かかわる」ことを実感できるようにする。	・「学びのポイント」を活用し、学習の質的向上 ・学校課題研究「主体的に対話的な深い学びのもと、自分の考えを表現できる子」の充実	①「学びのポイント」（じしゃく）を活用した授業づくりを行い、授業研究において取り組む。 ②教員が ICT 研修を重ね、児童にスタディサブリ等のアプリを活用させ、自ら進んでタブレットを活用した主体的な学びができる授業づくりをさせる。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を活用し、児童の基礎学力の向上について分析し、具体的な手立てを設定・実践する。 ③授業での「振り返り」を重視することを共通理解のもと継続していく。	①学校評価における教職員アンケートで、関連する項目において肯定的な回答が90％以上になったか。 ②学校評価における教職員アンケートにおいてスタディサブリを家庭学習で活用し、学習履歴で確認する項目において、90％以上になったか。 ②児童アンケートにおいて「学びを実感できるように、授業において学習の「振り返り」を行うことができたかの項目で90％以上になったか。	①児童アンケートにおいて「授業が分かりやすい」の項目で昨年度は95％だったが、今年度はほぼ同じ94.9％となった。ほぼ目標を達成したと言える。 ②学校評価における教職員アンケートにおいてスタディサブリを家庭学習で活用はしたが、普段の学習では活用が十分でなかった。 ③童アンケートにおいて「学びを実感できるように、授業において学習の「振り返り」を行うことができたかの項目で90％以上になった。	A	・授業が分かり易いと多くの児童が肯定的な回答をしているので、来年度もこの水準を維持していく。 ・スタディサブリの活用が十分でないため検討の結果、令和7年度からの申し込みを辞退する。 ・授業の終わりに、めあての観点に沿って授業全体の振り返りをし、次の授業へ繋げていくことは有効なので、次年度も継続していく。	・児童個々に差があるのにもかかわらず高評価であることは評価できる。今後も維持して欲しい。 ・中学校ではSola ルームでの活用が有効とされている。個別学習をさせることが評価されている。 ・ICT のアプリは進化が早いので、常にチェックして評価、導入をしていくことを希望する。
2	<現状> ○学校評価アンケートにおいて、「学校は楽しい」の質問に肯定的な回答した児童は、90％を超え、全国学力・学習状況調査の生活習慣でも同様の項目において、市の平均を上回っており普段の生活に心の安定が見られる。 ○リフレッシュ工事に伴い、学校生活環境が制限されたり、変更があったりして行事等の実施が困難な場面が見られる。 <課題> ○児童の居場所の確保と心の安定を確保することが、「楽しい」という気持ちになれるように、あたたかい言葉をかけ、「認め・褒める」教育の一層の推進が課題である。 ○制約から解放され、生活環境に起こる心身の変化について、生徒指導委員会でも共有し、学校全体で対応することが課題である。	・児童への教育支援体制 ・安全安心で居場所のある生活に主体的に取り組む児童の育成に取り組む	①情報端末を使って様々なアンケートや普段の見取りを重ね、児童の状況把握や支援・相談を行う。 ②児童の様子を ICT 機器の活用で記録を残し、個別のシートを作成することで継続的に様子を把握していけるようにする。	①学校自己評価で教職員アンケートにおいて、関係する項目の肯定的な回答の割合が90％以上になったか。 ②学校自己評価で児童及び保護者アンケートにおいて、関係する項目の肯定的な回答の割合が90％以上になったか。	①学校自己評価で教職員アンケートにおいて、個人情報のシステムの項目について肯定的な回答の割合が97％以上になったか。 ②学校自己評価で児童及び保護者アンケートにおいて、ICT機器の活用に関係する項目の肯定的な回答の割合が71％と大幅に下回った。	B	・個人情報の取り扱いに関して高水準の回答を得ているので、来年度も継続・維持していく。 ・教育 DX が進む現在、ICT の活用は必須事項なので、来年度は活用の推進を強く進めていく。	・教育相談体制の評価については、「相談」の必要がない家庭・児童については高評価が出にくいのではないかと。 ・教育相談体制の長期的・継続的な会合など工夫が大切。不登校児童の保護者との会話を増やしてみようかと。 ・チャレンジスクールでの子どもたちの様子は、積極的で心強く感じる。継続して行って欲しい。 ・リフレッシュ工事についてきめ細かい安全指導がされていると実感した。 ・「認め・褒め・語らせる」は、予測不能な未来を他者と協力して課題解決することを通してたくましく生き抜く子どもたちの基礎力を伸ばすために必要である。高評価なのは良い。
3	<現状> ○学校運営協議会を推進させ、熟議のもと協働して児童を見守る・育成することを確認し、今年度の方針を確認できている <課題> ○学校運営協議会で熟議し決まった内容を、保護者・地域で多くの方々と共有・協働することが課題である。	・SNS を活用し教育活動を公開して情報の共有 ・小中一貫教育に基づいた、地域との協働活動	①HP にブログを立ち上げ、普段の教育活動を公開し、情報を共有する ②SSN 会議で情報を共有することで、小中学校と地域が一緒になり、子どもたちへの声かけ（あいさつ運動等）などを心がけ、交流活動を増やしていく。	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と回答する割合が85％以上を維持 ①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と回答する割合が90％以上を維持	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と回答する割合が100％の回答を得ることができた ①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と回答する割合が95％となった。	A B	・今年度からブログを活用した広報活動をするにより、学校の様子が今までよりよくわかるようになったとの評価をもらうなど肯定的な回答だったので、来年度も維持していく。 ・防犯ボランティア活動やPTAの見守り隊など協働活動で子どもたちを育成することができたので、継続をしていく。	・リアルタイムの情報としてブログは、とても良い。大事なものは、続けていくことなので体制を整えて欲しい。 ・地域との連携については、転入者が多く、地域意識が過渡期にある。大変だが学校にも頑張ってもらいたい。
4	<現状> ○タブレット端末やアプリを活用する学習で ICT を活用することで、業務作業時間を短縮することができた。 ○「理数教育」「教科横断型の授業」について研究からの成果を基に児童の育成を行っていく。 <課題> ○ICT 活用については、スキルの個人差が見られるので、教職員全体の向上が求められる。 ○業務時間の効率化も必要であるが、「働きがい」の充実が課題である。	・「凡事徹底」と「褒めて・認めて・語らせる」教育についての実践及び実現	①「理数教育」の研究成果と「教科横断的視点に立った資質・能力の育成」の研究での成果を今後の研究に活用する。 ②教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目の向上を図る。	①教員が「主体的に対話的な深い学び」の実現を目指す状況になったか。 ②「尾間木小家庭学習スタンダード」を普及することで、家庭と学校で協働し確認・共有することができたか。 ③「尾間木小プラットフォーム」を本格運用し、教職員が研修をすることで授業改善に役立てられたか。	①研究授業のために「主体的に対話的な深い学び」について意識して取り組んだため実現を目指す状況になった。 ②「尾間木小家庭学習スタンダード」を普及することで、家庭と学校で協働し確認・共有することができ、自主学習が充実してきた。 ③「尾間木小プラットフォーム」を本格運用し、教職員が研修をすることで授業改善に役立てようとする教員が多くみられ成果が見られた。	A	・全学年で研究授業に取り組み、研究発表授業以外でも授業を提供するなど、全員で課題に取り組むことができた。 ・特に高学年において、自主的に学習に取り組む姿が見られた。 ・研修で学んだことや体験したことを授業に生かしてみようとチャレンジする教員が今までよりも増えてきた。継続維持していく。	・自主的に学習に取り組む児童が増えていることは、素晴らしいことだと思う。総合的な取り組みを継続して欲しい。 ・研究授業における授業改善は教員の意識が向上したためと思えるので、今後も継続・維持して行って欲しい。